はじめに

アメリカ西海岸の玄関口にあたるロサンゼルスは、全米第２の都市であり、数多くの日系企業等が進出しています。また、世界でも有数の日本人コミュニティを形成しています。

近年、治安が回復傾向にあると言われていますが、２００８年よりアメリカ経済／産業界は世界を巻き込む未曾有の経済危機に直面しており、国家経済の不況は、失業率を上昇させ、犯罪減少に大きな妨げとなると懸念され、犯罪に巻き込まれる邦人の増加も予想されます。また、ＦＢＩを始めとした各治安当局よりテロ警戒情報が、度々発せられ、ロサンゼルスは潜在的な攻撃目標と見られております。地質学的に、ロサンゼルスは多数の断層と隣接していることから、大震災に遭遇する可能性も否定できません。楽しいはずの海外旅行や海外生活が一転して暗い思い出とならないよう、一般犯罪やテロ、そして大規模自然災害への心構えをしっかりと持ち、万全な備えをしておきましょう。

１．犯罪発生状況

ロサンゼルス市の犯罪発生件数は継続した減少傾向を維持しています。殺人事件のみ前年より０．３％増加しており、その他の凶悪事件（強姦、暴行傷害及び強盗）や財物犯罪（窃盗、自動車盗、侵入盗、車上荒らし）は減少しています。顕著に増加している犯罪は報告されていませんが殺人、強盗に関しては減少率が停滞してきています。昨年減少率の大きかった強姦は、例年以上の減少で１９．９％減を示しており、これは警察官の巡回パトロール強化が影響しているものとされています。他方、犯罪は減少傾向を継続していますが、昨年に発生した件数をみれば、凶悪犯罪は１９，８０５件、財物犯罪は８４，４１０件に上り、日本と比べ依然高い数値であり、一昨年の世界的な経済危機から、失業率の増加や経済の停滞により、特に経済的動機を持つ犯罪が広範囲に増加する懸念は依然払拭できない状況にあります。引き続き、事件に巻き込まれないよう十分な注意が必要です。

最新の情報は、http://www.lapdonline.org/assets/pdf/cityprof.pdf　にて参照できます。

２．防犯対策について

(1) 空港での防犯対策

空港は、荷物を抱えた旅行者が多く集まる公共の場所であり、中には犯罪目的で徘徊している者がいても不思議ではありません。全般的にスリや置き引き等の窃盗犯罪が多い場所であり、特に到着直後や出発直前等の気を許してしまう様な場面で被害に遭うことが多いようです。また、気軽に日本語で話しかけてくる外国人には注意が必要です。

(ｱ) 窃盗被害の予防

□　カート又はポーターを利用して荷物を一度に運ぶ。

多数の荷物がある場合には、複数に分けて運ぶよりも、キャリーワゴンやポーター等を利用して一度に運んだ方が、全ての荷物に目が行き届くのでスリや置き引き等の被害の予防になります。

□　チェックイン時に手荷物から目を離さない。

できるだけ手元に保持するか若しくは足に挟んだまま手続きを行い、一時

たりとも目を離さないことが重要です。

□　セキュリティ・ゲートでは再検査を受けないよう心掛ける。

搭乗前の保安検査場では、一旦ゲート式の金属探知器に反応してしまうとボディチェック等の再検査を受けることとなり、先にX線装置を通過した貴重品等には目が離れてしまうため、なるべく1回でパスするように貴金属類を外した上で検査を受ける事をお勧めします。また、家族や友人と一緒にいる場合は、互いに協力して行動しスキを見せないことが防犯のための最良の策になります。

(ｲ) 募金活動

空港当局は、空港施設内での募金に応じる必要はないとアナウンスしています。旅の緊張もあって日本語で話しかけられるとつい気を許してしまいがちですが、基本的にはそのような募金活動には関わらない方が賢明です。

(2) ホテルでの防犯対策

当地では、一流のホテルにおいても盗難の被害に遭う例が稀ではなく、室内に置いていた貴重品が紛失したという事例はたくさんあります。

□　チェックイン・アウト時に荷物から目を離さない。

フロントでは、手続きに気を取られ、荷物への注意が疎かになりがちです。カウンター上のバッグは手で保持し、足元の荷物は足で挟むなどしてしっかり保持しながら手続きを行いましょう。

□　セーフティ・ボックスの利用

貴重品はホテルの「貴重品預かり」に預けるか、セーフティ・ボックスに入れるようにしましょう。

□　エレベーターでの警戒

エレベーター内は密室となるので不審な人物がいる場合は、次のエレベーターを待つなど周囲を警戒しましょう。

□　客室ドアのチェーン施錠

宿泊する部屋のドアには必ずチェーンをかけ、来訪者の対応は必ずチェーンをかけたまま行いましょう。

□　ロビー付近での警戒

ロビーで待ち合わせ等をしている間に、話しかけたり、コインをばらまいたり、スーツケースを故意に倒して注意をそらし、バッグを置き引きしたり、財布をスリ取る者がいますので、ホテルの中と思って安心せず、貴重品は常に身体から放さないことが重要です。

□　レストランでの警戒

食事中（特にビュフェ・スタイルにおいて料理を取りに行っている間）手荷物を席に残したまま、離れることで置き引きに遭う可能性が非常に高くなります。常に手荷物を携行する又は、家族や友人が一緒にいる場合は、相互に席を離れ、スキを見せないことが重要です。

□　客室内での貴重品管理

日本とは違い、室内に置いてある現金は、清掃員へのチップと判断される可能性がありますので、ご注意ください。

(3) 屋外における防犯対策

□　強　盗

強盗に遭わないためには、夜間の一人歩き、人通りの少ない場所や危険とされる地域に近づかない等が挙げられます。一方、万が一、強盗に遭った場合には、身体の安全を第一に考え、抵抗せずに現金を渡した方がよい場合があります。その際も、いきなり内ポケットに手を入れて財布を出す素振りをすると、興奮状態にある相手は武器を取り出す動作と誤解して、暴行や銃撃のきっかけとなる可能性があります。現金のある場所を教え、相手に取らせる等、なるべく相手への刺激は避けましょう。**「目立たない」**、**「用心を怠らない」**、**「行動を予知されない」**の三原則を遵守することが極めて重要です。

□　すり、置き引き等

写真撮影等で、荷物から数十秒間目を離した間にバッグ等がなくなったというケースが後を絶ちません。また最近では、被害者の注意をそらすために道や時間を尋ねる者と、その間にカバンを盗む者というような複数犯による連携犯行も少なくありません。ハリウッド、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ等の観光地、ホテルや空港のロビー、レストラン、レンタカー会社等の受付付近が、盗難多発地域として挙げられます。被害に遭わない、または被害を少なくするためには、時々自分の周辺に目を配る、貴重品は数カ所に分散して所持する、人前で現金を見せない、バッグの留め金は自分の体の方に向ける、危険を感じたら大声を上げるなど、警戒心を保ち続ける心構えが必要です。もし、盗難被害にあった場合は必ず警察に届けるとともにレポートの写しを控えておくと、盗難品が見つかった時や保険の請求に役立ちます。不幸にしてパスポートが盗難にあった時も同様にレポートを作ってもらい、早急に総領事館において所要の手続きをしてください。

□ 寸借詐欺

身に危険は及ぼさないまでも金銭的に大きな損害を受ける場合があるので要注意です。一般的な手口としては、盗難被害に遭ったので助けてほしいとして有名組

織の名刺を差し出した上で相手を信用させ、結局は借りた現金を持ち逃げするといったパターンが多いようですが、中には担保として高級そうな洋服等を預ける代わりに高額な金銭を借用しようとする手の込んだ詐欺師もいるため、原則として見知らぬ相手にはお金を貸さない強い意志が必要です。

(4) 自動車運転時の防犯対策

強引な運転（急な割り込みや後方からハイビームを点滅させる等の威嚇行為等）が起因して発砲事件に到るケースが少なくありません。そのような運転をしないよう自ら自制することは勿論ですが、もし危険な運転をしている車両がいれば近づかないことが大切です。万一トラブルに巻き込まれた場合には、速やかに警察機関等に助けを求めてください。

また、フリーウェイや夜間の道路上などで立ち往生することのないように日常から車両の点検整備をしっかりしておくとともに、事故処理等のサポート団体「ＡＡＡ（American Automobile Association）（日本の JAF に相当：有料）」等に加入しておくといざという時に便利です。

□ 乗車中のドアロック

車外からのひったくりや、信号待ちの間に強盗などに助手席に乗り込まれないように、一般道などでは窓を閉めておくとともに、必ずドアをロックしておくことが大切です。また、信号待ちの間、窓を拭いて金を要求する者がいますが、運転者が承諾して支払いをしようとした時に強盗被害に遭う場合もありますので要注意です。

□ 駐車場所の警戒

駐車する場合は周囲の視線や周囲の車の手入れ状況にも注意し、少しでも不安を感じる時は場所を変える用心深さが必要です。

□ 下車時のドアロック

わずか１、２分でも車を離れる場合は鍵を抜き、全てのドアをロックするよう心がけます。観光地で停車した車のすぐ脇で写真を撮っていたところ、車内に置いていた貴重品をそっくり盗まれた例や、給油所で代金を支払中に車を乗り逃げされた例等もあります。また車上荒らしの被害に遭わないためにも、車外から見える場所に貴重品やバッグを置かないことは原則ですが、それをトランク等に移す行為自体を見られないためにも事前に移しておく周到さも必要です。なお、警報アラームを付けておくとより防犯効果が高まります。

□ ヒッチハイカー

素性の分からない者に対する安易な同乗許可、もしくは見知らぬ相手の車への同乗は、自ら危険を招いているような行為であり、絶対に避けるべきです。いきなり武器を突きつけられ、金品や車両の盗難被害、更には殺人事件に発展する可能性も

否定できません。

□ バンプ＆ロブ

当地では、車をわざとぶつけてドライバーが降りた隙に車ごと盗んでしまう「バンプ＆ロブ」という窃盗手口もあるため、特に夜間に車をぶつけられても暗い場所では車からすぐに降りず、明るい安全な場所まで車を移動させることが重要です。怪しい人物と交渉するより、保険でカバーしたほうが安全な場合も考えられますので、安心できる保険に加入することも重要です。

□ カー・ジャッキング

「カー・ジャッキング」とは、持ち主が乗っている車を武器などで脅して奪い取ることで、以前は空車を盗んでいた泥棒も、ハイテク・アラーム・システムの一般化のため、信号で止まっている車や駐車直後の車を狙うようになりました。

この犯罪で特に危ない点は、車が盗まれるだけでなく車の持ち主が暴力的被害にあうことですが、以下の対策によってこの犯罪の被害者となる機会を減らすことはできます。

『カー・ジャッキング予防策』

① 駐車している自分の車に近づく時は、車の近くやあなたの後ろに怪しい人物がいないか周囲を確認すること。

② 車のキーは手にしっかりと握り、すぐ使用できるようにして車に近づくこと。バッグやポケットにキーを入れたまま車に近づくことは余計な時間を作り、犯罪者に隙を与えることになります。

③ 塀などで囲まれた場所や地下の駐車場はより一層の警戒が必要です。

④ 信号で停止する時も、万一の事態に備えて車を動かせるだけの十分な車間距離を保持しておきましょう。

⑤ 質問をする素振りの通行人に接近されても窓を開けて応対しないこと。車泥棒の騙しの手かもしれません。

⑥ 近年では、停車してある車両の後方に張り紙を置き、乗車してエンジンをかけた運転手が同張り紙を除去しに車を出たところを盗んで乗り逃げする等、犯人側が仕掛けた罠にはまってしまうケースも報告されています。

⑦ もし、武器で脅された場合には無理に抵抗して更に危険な目に遭うよりも、相手に逆らわない方が賢明です。

(5) 住居について

(ｱ) 住居の選定

当地への赴任者が最初に直面する問題が居住場所です。社宅や前任者の住宅を引き継ぐ場合は別として、自分で探すときはまず地域の治安をよく考慮する必要があります。一般的に次のような場所や家は避けた方が良いでしょう。

① 道路にゴミが散らかっており、壁等に落書きが多い地域

② スーパーマーケットや店が鉄格子等で厳重に囲まれている地域

③ 地域に緑が少なく、庭の手入れが悪い家が多い地域
④ 付近のショッピングモール等における客の服装や態度が乱れている地域
⑤ フリーウェイの出入口に近い地域
⑥ 表通りから見えない家
⑦ 玄関周辺に樹木が生い茂っている家
⑧ 夜間、周辺の照明が十分でない家

アパート選定上の着意

防犯上、アパートは侵入箇所が制限されているという利点がありますが、反面、外から隔離された密室になるという大きな欠点があります。入居にあたっては、地域の治安状況、入居者の状況、ガードマン・セキュリティの有無、玄関・ガレージ等の出入規制要領、各部屋の施錠状況及び介在する不動産業者の信頼性等を確認し、慎重に選定する必要があります。

(ｲ) 住居の防犯対策

入居契約をする前に、防犯上の注意点を参考に点検を行い、不十分な場合には、家主に確実に処置させるとともに、場合によっては警報装置等の取り付け交渉を行うことも、安全な生活をおくる上では必要なことです。

□　ドア、窓の確実な施錠

殺人、強盗犯罪の多くは、昼夜を問わず住居への侵入により発生しています。その手口は決まって鍵のかかってないドアや窓からの侵入です。鍵をかけることは防犯の基本ですが、これを疎かにしたために被害に遭う例が多いようです。

建物の外周を門、塀、垣根などに囲まれている場合には、侵入の障害となるため抑止効果が期待できますが、これも門の鍵が施錠されていなければ意味がありません。また建物の玄関、裏口等全ての出入口は日常から施錠するよう心掛け、予算に応じて警報装置を取り付けておくと防犯効果が高まります。また、夜間対策として屋外、特にドア周辺には屋外灯を設置し、一晩中点灯しておくのも効果的です。

□　緊急連絡先リストの整備

電話は緊急の際、救援を求める手段となります。緊急連絡先リスト（９１１、所轄警察署、友人等）を作って自宅電話の脇に備え付けておくと同時に携帯電話にも登録しておくと咄嗟の対応が可能となります。また個人情報の防護策として、見知らぬ相手から電話を受けた際には、まずは先方がかけた先の名前や電話番号が正しいかを確認しておけば、間違い電話であっても相手に必要以上の情報を与えなくて済みます。もし迷惑電話等でお困りの場合には電話帳に名前を掲載しないサービス（電話会社へ依頼、有料）もありますので必要に応じて利用すると良いでしょう。

□ 良好な近所づきあい

日本のように手土産を持って挨拶に回る習慣はないようですが、隣人に出会った時は努めて挨拶するなど親しくしておき、相互の信頼関係を普段から築いておくことが大切です。

□ バケーション・ホールド

長期不在間、新聞及び郵便受けを放置しておくことは、空き巣の絶好のターゲットになります。隣人に新聞、郵便物の保管管理を依頼するか、郵便局や新聞配達所にバケーション・ホールドを依頼しておきましょう。また、照明を自動的に点灯させるセンサーやタイマーの設置も防犯対策となります。

３．テロ対策

米国同時多発テロ以降も、ＦＢＩ等からテロ警戒情報が度々出され、いつ、どこでテロが発生してもおかしくない状況が続いています。テロの発生を明確に予測することは困難ですが、日常からテロに関する情報には注意を払っておくとともに、家族や友人間で情報を共有し、万一巻き添えになってしまった場合における連絡手段等も決めておくと良いでしょう。

４．災害対策

(1) サバイバルキットの用意

災害の発生時期は予測不可能であるため、少なくとも災害初期を乗り切るだけの最低限の防災グッズを日頃から準備しておくとともに、その使用方法につき習熟しておくことが重要です。また食べ物の賞味期限や電池の消耗具合を定期的に点検しておき、いざという時に使えるようにしておきましょう。

「災害必需品チェックリスト」

（重要な家族の書類）

□ 身分証明書：運転免許証、パスポート

□ 医療関係書類、保険証、ローン関係書類

（救急キット）

□ 絆創膏、ガーゼ、ふきん、ゴム手袋

□ アルコール、オキシドール

□ アスピリン

（工具等）

□ 電池式ＡＭ／ＦＭラジオ

□ 懐中電灯、予備電池

□ ガス栓等のレンチ

（生活必需品）
☐ 現金（少なくとも＄５０～＄１００）
　キャッシュカード及びクレジットカード
☐ 最低７日分の処方中の薬と可能であれば処方箋の写し
☐ 石鹸、トイレットペーパー、ビニール袋
☐ 着替えと履物　１人１セット
☐ 毛布又は寝袋
☐ 女性用品

（飲料水と食料）
☐　　飲料水　１人１日１ガロン（１週間分の水が理想的）
☐ 非常食料
☐ 処方薬を服用の場合、必要な食飲料の予備

（その他、特別な必需品と医療のケア）
身体障害等により事由に行動できない方は緊急キットに各自必要なものを追加し、以下のリストを携行する。
☐ 医療機関
☐ 薬と処方薬のリスト
☐ 使用する必要な補助器具
☐ 特殊器具の取扱説明書

（乳児／幼児）
☐　　ミルク、ボトル
☐ おむつ
☐ 薬

（ペット）
☐ ネームタグ
☐ 予備の餌
☐ クリーンアップ用品

(2) エマージェンシー・ダイアル「９１１」について
　１９８４年に始まった緊急電話ダイアル「９１１」は日本の「１１０」「１１９」に該当します。「９１１」をダイアルすると、通信センターのオペレーター席に電話をかけた場所の住所及び電話番号が表示されるとともに、オペレーターと繋がりますので緊急事態の発生場所、事態の内容（警察、消防、救急車の別）を告げてください。なお、公衆電話からかける場合でもコインは必要ありません。
　ただし、「９１１」はあくまで緊急事態の通報のためのものであり、不用意な「９１１」コールが真に助けを必要としている人の妨げとならないように、緊急時以外は使わ

ないようにしてください。
　その他、ダウンタウンのリトル東京に所在する非営利組織のリトル東京交番（Tel 213-613-1911）は、警察官立寄所でもあり、非常に協力的です。
　在ロサンゼルス日本国総領事館（Tel 213-617-6700）でも可能な限りお力添えしますので、お困りのことがありましたらご相談ください。

(3) 旅券（パスポート）の管理及び在留届の提出
　(ｱ) 旅券
　　外国滞在中、日本人であることを証明する旅券は重要なものであり、アメリカの法律によっても、アメリカ国内にいる外国人は有効な旅券を所持しなければならないことが義務づけられています。また、出張や旅行等で中南米等に出掛ける方は旅券の有効期間が６ヶ月以上ないと入国できない国もありますので要注意です。
　　紛失または盗難にあった旅券は、偽造加工を施された後、日本だけでなく各国への不法入国やその他の犯罪にも利用される可能性があるため、旅券の保管にはくれぐれも注意を払ってください。
　　もし、紛失・盗難や失効してしまった場合は、直ちに総領事館（Tel 213-617-6700）領事部にご連絡いただき新たな旅券の発給等の手続きを行ってください。

　(ｲ) 在留届
　　在留届は以下のような場合に活用されます。
　　① 海外で、事件や思わぬ災害等大規模な緊急事態に遭遇したときの邦人安否の確認、救援活動、留守宅への連絡
　　② 総領事館からの緊急連絡
　　③ 海外在住の日本人のための長期的な教育・医療・安全等の施策・対策を政府が検討する際の基礎的資料
　　在留届が提出されませんと、総領事館は、皆様が当地に滞在していることを知り得ず、また帰国等により移転した場合には帰国届や変更届を出して頂かない限り、皆様が引き続き当地に滞在されていると判断します。緊急事態が発生した場合の安否照会では一刻を争う場合もございますので、在留届を出して頂くことと同様、転出される際には帰国届又は変更届を提出して頂きますよう、ご協力お願い致します。
　　在留届は、総領事館に備え付けの用紙（外務省ＨＰからのダウンロードも可能）に記入した後、窓口、郵送又はＦＡＸにより提出して頂くか、もしくは自宅や学校、オフィスのパソコンからインターネットを通じてオンラインで提出できる「在留届電子届出システム」をご利用ください。（オンラインで在留届を提出された方は同システムにて帰国届、変更届も提出できます）。詳しくは総領事館（Tel 213-617-6700）までお問い合わせください。

(4) 情報収集
　(ア) 在ロサンゼルス日本国総領事館ホームページ
　　ロサンゼルス近傍の在留邦人や旅行者の皆様へ、ロサンゼルスの治安情勢やテロ関

連情報等を提供し、更には日系団体や企業団体とともに安全対策を考える安全対策連絡協議会（定期開催）の結果を掲載しておりますので、是非ご参照ください。

在ロサンゼルス日本総領事館ホームページ　http://www.la.us.emb-japan.go.jp

（イ）　大規模災害用緊急一斉通報

大規模な災害等が発生し、総領事館から在留邦人の皆様に緊急連絡をする手段として、在留届に記載されたメールアドレスに緊急情報として情報提供を行います。これは、在留届に記載されたアドレス全てに送信されるシステムになります。

（ウ）Ｅメール配信サービス

大規模災害用緊急一斉通報の他に在ロサンゼルス総領事館では、在留邦人・旅行者の皆様に対し、当館のホームページから登録して利用できるＥメール配信サービスも行っております。領事関連情報及び生活に関連する各種情報をメールにより直接お届けするサービスであり、メールアドレスをお持ちであればどなたでもご登録・ご利用になれます。（ただし配信は日本語のみとなります）登録方法は、当館のホームページ上にあるＥメール登録画面にて、氏名、メールアドレスなど簡単な入力をするだけで可能ですので、是非ご登録ください。